ミラクルニーム・農業用資材「ニームＺ」

クビアカツヤカミキリ対策の“土台”に
― ニームＺという選択肢

発行：農民連ふるさとネットワーク

梅が、枯れていきます。

特定外来生物クビアカツヤカミキリの被害が、各地で急拡大しています。幼虫が幹の内部を食い荒らし、気づいたときには木が立ち枯れてしまう。「結局は、強い薬で叩くしかない」。そんな声をよく耳にします。しかし、成虫を薬で追うだけでは、翌年にはまた新しい成虫が飛んできます。私たちは、叩く前にやるべきことがあると考えています。被害を広げないための“土台”づくり。その一手に、ニームＺがあります。

ひとつ、長く続いた話があります。

私たちの会員に、新潟で有機米を育てる方がいます。その方がニームＺを忌避剤として使い始めて、十五年になります。狙いはカメムシでした。確かに、クビアカとは相手が違います。しかし、私たちが注目したいのは“続いている”ことです。強い薬のように効かなくなることがなく、十五年のあいだ、被害を出さずにこられました。地道な予防を、土台として続けてこられたのです。奈良では、ぶどうの農家が農薬をやめ、ニームへの切り替えを始めました。土台を据える人は、果樹にも広がっています。

理由は、ニームの“効き方”にあります。

化学農薬の多くは、虫のひとつの急所だけを狙います。だからその急所をかわす虫が生き残り、使うほど効きが鈍っていく。一方でニームは、脱皮を妨げ、食欲を止め、産卵を嫌がらせる――複数の働きが同時にはたらくため、虫が耐性を持ちにくいと報告されています。カミキリムシ科では、産卵と後食を抑える忌避の働きが特許でも示されています。しかも、ミツバチなど周りの生きものへの影響は小さい。土台を支える資材として、理にかなっています。

答えは、組み合わせです。

ニームＺだけで、カミキリを退治できるわけではありません。ネットで産卵を防ぎ、見つけた成虫は捕らえ、傷んだ木は早めに処理する。その一つひとつが活きるのは、足もとに予防の“土台”があるときです。だからまず、土壌と根元への定期散布から始めてみませんか。土台があるか、ないか。それが、来年の園地の姿を分けていきます。使い方は、私たちがご一緒に考えます。まずはお気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ：農民連ふるさとネットワーク
東京都板橋区熊野町47-11 社医研センター2階／TEL 03-5966-2250／FAX 03-5966-2253／n-fnetw@nouminren.ne.jp

※ニームＺは農薬ではなく農業用資材です。確実な駆除を保証するものではなく、ネット被覆・捕殺・被害木処理などと組み合わせた予防の土台としてご活用ください。効果の現れ方は、栽培環境や気象・使用方法により異なります。